

(経産省認定) 第四次産業革命スキル習得講座



Reスキル講座

厚労省「人材開発支援助成金」対象講座 約5割～7割程度助成される

第36回 修了者は「ITSSレベル4」相当の業務遂行スキルを有する事が証明されます

DXによる業務再構築 (BPR) 責任者養成講座

～業務再構築とは、儲けるための「正しい仕組づくり」。それを担う人材育成～

受講対象者 一全ての管理職が対象 **管理職の学び直しが5割利益率を向上させる!**

- ・改善意欲があり、利益率を5割向上させる「業務再構築」の構築方法を習得したい方。
- ・部下を育成し、戦力化し会社に貢献したい方。
- ・「ITSSレベル4」相当の業務遂行スキルを有する証明を修了証書として経産省認定講座教育訓練事業者から発行され、個人の評価・モチベーションが上がります。

ICTの利活用で「在庫20%・人件費8%・材料費1%」削減。利益率5割UPを実現する方策を学ぶ!

管理技術による利益 一売上比2%の新たな利益(“経常利益率の5割増”)

【効果のモデル】

(例)年間売上高 100億円程度の企業

	内 容	計算式	予想利益	実績値
1	材料費の削減	50億円×1%	5,000万円	} 8~15%
2	在庫金額の削減	7億円×20%	2,800万円	
		×20%		
3	間接要員の能率向上(製造)	2億円×20%	4,000万円	
4	間接要員の能率向上(事務)	3億円×10%	3,000万円	
5	直接人員の生産性向上	10億円×5%	5,000万円	
			19,800万円	

注1) 上記は1年間のメリットで、この利益は継続的に実現する。(定着化が続く限り)
 注2) 上記は金額換算出来る項目で、受注納期短縮、多種少量生産の実現、納期回答の迅速化、見積書の迅速化、製造期間の短縮、クレームの減少等々の金額換算出来ない経営効果もある。注3) ビジネスモデルの高度化・人材育成効果が大きい!!

日 時 : 2022年 10月 17日 ~ 2023年 2月 6日
毎週月曜日 全14回 13:00~17:00 (別添のカリキュラムを御参照下さい。)

受講形態 : ZOOM採用 (定員15名)
マンツーマンの塾運営を目指しています。(卒業生300名以上)

受講料 : 25万円(税別)/人
「厚生労働省人材開発支援助成金」の対象講座。(約5割～7割程度の助成金を受けることが出来ます)
(参考HP: [厚生労働省「人材開発支援助成金」\(人への投資促進コース\)](#) 不明点はお問合せください)

申込締切日 : 2022年 9月10日(土曜日)
(助成金申請時の締め切り日) 2022年 9月16日(金曜日)(*申請手続きは、ご説明します)
一助成金申請企業様は、申請締め切り日を厳守ください、初めて申請される企業様は、ご連絡ください)

本講座の目的 「JAPAN AS No1」1979年米国でベストセラーとなった本です。内容は、

米国人は日本人のように学習しろ! 当時は「バブル期」1人当り生産性は世界4位。「働きすぎ」と「はしゃぎすぎ」。

「働きすぎ」は、今も同じ。当時流のCM「24時間働けますか!」。明るい「働きすぎ」でした。今は「ブラック」何故でしょう?

当時は「管理技術」が常識で「正しい仕事」に自信がありました。今は我流。結果、生産性は世界26位 後進国に低下中。

本講座は、**全業務につき**、これに正しい「解」をご提供し生産性を飛躍的に向上させます。 塾長 八木 弘泰

【本講座の特徴】 オンライン同時双方向型セミナー

「実際原価」は
ウソの原価です
！



では、「真の原価」
は、どのようにして
求めるのですか？

毎回演習で受講者が抱える課題を解決

2000社共通の問題点を、演習で解決。
受講者が抱えるBPR課題を演習で解決。

受講者の会社名は非公開

・躊躇なく、何でも質問・相談できる

聞きのがした講義はいつでも視聴可能

・聞きのがした講義は、ホームページから再生可能

ライブで質疑！ライブで演習の進捗指導！

講義中に課題の進捗をチェックし お声を掛けます。

質問シートは、あなたの一生のメモ

質問履歴、回答履歴は永久検索
受講後もBPR構築の質問・助言を受け記録できます。

あなたの表情をモニタリングします

あなたの表情から講師が問いかけます。
(モニタリング係があなたの表情を読みサポートします)

受講者の熱意にお応えします！

- ・希望者への毎回予習、復習の実施。
- ・受講者の希望に応じて休日・深夜補講対応します。
落ちこぼれZERO！

「管理技術」でDXに必要な基準・標準化は、容易に指導できる！ —標準化の「実習」が大人気—（下記の一つを選択）

作業標準の設定

工程管理の基本である作業標準・標準時間の設定を作業分析ソフトを使用して特定品目の設定を演習します。

ロケーションの設定

保管管理が不備では在庫管理は出来ない。御社の倉庫を対象にロケーションを演習で設定します。

原価チャージの設定

「時間当たり単価」の設定が出来てない企業が多くなっています。御社のチャージ(賃率)設定の演習をします。

部品表(BOM)の設定

部品表は、生産管理の要！でも作成方法が分からない、難しいと考えている方に御社の製品を基に演習をします。

「受講者の声」

中堅ITベンダ(東京) SE課長

先生の皆さんは「御用聞きSE」との指摘は当初は反感を持ちましたが、20年間の経験を顧みますと、ご指摘通りで反省しました。確かに顧客様のご要望には間違いが多くあり管理技術でのご提案に確信が持てました。

大手ITベンダ(名古屋)SE課長

月曜日に受講し火曜日に「課題の提出」は、きつく、最初は脱落しそうになりました。予習の重要さと受講時の姿勢のご指導を受け「正しい方法手順」で受講する事により当日中の「課題提出」が容易に出来ました。「間違ったことを懸命にやる」事の問題を実感出来、管理技術の正しい方法手順を顧客にご提案する事の使命を認識出来ました



お申込みはこちら

<https://kan-lab.com/contact-jyuku>

または、メール「asguide@kan-lab.com」宛に申込可能です

また、FAXでお申込みの場合は、必要事項をご記入の上、「0798-55-8779」へFAX送信ください。
なお、誠に勝手ながら満席になり次第、申込を締め切らせていただきますので、ぜひお早めにお申し込みください。
申込締切日：9月10日(土)

参加ご希望記入欄		<input type="checkbox"/> 受講する		<input type="checkbox"/> 詳しい説明を聞きたい	
貴社名(必須)	ふりがな				
ご住所(必須)					
TEL(必須)			FAX		
部署・役職名					
ご芳名(必須)	ふりがな				
E-Mail(必須)					
部署・役職名					
ご芳名(必須)	ふりがな				
E-Mail(必須)					
部署・役職名					
ご芳名(必須)	ふりがな				
E-Mail(必須)					

【お客様の個人情報の利用目的】

お客様がご記入頂きました個人情報は、本セミナー資料・受講票の送付および、弊社セミナーのご案内送付以外に使用いたしません。

また、第三者にこれを開示することはありません。

お客様が記載された情報は、(株)管理技術ラボの個人情報保護ポリシー(<http://www.kan-lab.com/policy.html>)に基づき、適切に管理いたします。

同意する

塾長

八木 弘泰

中小企業診断士
特種一種情報処理技術者



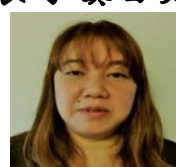
講師

吉川 正一



講師

長町 真由美



講師

八木 達也



50年間、600社に及ぶ企業の業務再構築指導に従事し、又、企業診断業務は2千社を超える実績を持つ。IT技術+「管理技術」で年商比2%の「新たな利益」の実現を目的に業務再構築指導で活動している。1970年代に「死語」化した「管理技術の復興・普及」をライフワークとし各地でのセミナーは年間30回以上に及ぶ。

40年間、コンサル・SE経験を持ち、製造業を中心に数百家の業務再構築に従事、複雑系の仕組を「科学化」する才能の持ち主。「管理技術で利益の獲得」を担うASGUIDEツール開発の責任者(経産省システムアナリスト)

業務再構築指導は20年間に及び、指導実績も加工業から再生医療企業までの広範囲。職務分析技法の特許を取得(ITTVC認定 ファシリテータ)

作業改善をベースとした標準時間の設定、在庫動態分析からのロケーション設定等々の「標準化・標準化」を専門とする管理技術コンサル

CHECK 厚生労働省 人材開発支援助成金(人への投資促進コース)について

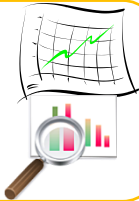
当該講座は「第四次産業革命スキル習得講座」に認定された講座で、受講前の申請により助成があります。

参考HP: [厚生労働省「人材開発支援助成金」](#)



クリック

不明点はお気軽にお問い合わせください。



「塾」の運用企業



株式会社

管理技術ラボ

Art & Science TEL: 0798-77-2667 FAX: 0798-55-8779

URL: <http://www.kan-lab.com> e-mail: asguide@kan-lab.com

(参考資料) ~教育訓練の目標・修了評価の・基準・受講の利便性~

1. 教育訓練の目標レベル

具体的な到達目標	・現在の生産システムに携わっている技術者（SE等）は間違っ知識のもとに開発が行われているケースが多く、結果的に当初計画したシステムが構築されることは少なく、効果も効率も目標を達成できていないケースが多い。これはシステムの設計・開発者が生産システムの基礎的知識やスキルはもとより、必須技術である「管理技術」を習得できていないことが、その主たる要因と考えられる。この管理技術を習得することで正確で、効率的な生産システムを設計、開発する能力を習得し、既存システムの再構築という業務も担えることを目標にする。 (管理技術をベースにした、分析・設計・定着化・効果測定技術の取得も含む)
習得できるスキル	・生産システムは元来、工学的な理論に導かれて稼働するものである。その基本となる管理工学、生産管理、原価管理、品質管理などの理論と現場で長年培われたノウハウを形式知化したTEXTを軸に、即、役に立つ管理技術を習得できる研修となっている。 さらに、「基準化」「標準化」が、ICT化の前提であるが、これが準備されていない事が、生産システムの失敗の大半になっている。 これら「基準・標準化」例えば、リードタイム、標準時間等々の設定方法及びBOM等のデータ構築の設定方法も取得できる。 生産システムに必要なICT機能も、習得でき、企業の特性に合致したRFPが作成できる。

2. 教育効果の把握方法（修了評価）

到達目標に対する技術・知識の到達度の把握・測定方法	1. 毎回の「事例演習課題」の発表内容の評価 2. 毎回の「理解度テスト」の提出を求め、その「評価」、満点になるまで、再提出を義務としている。 3. 出席確認は、開始・終了時に「写真撮影」 4. 講義中は、「モニタリング担当」「事務局」が、受講者の「表情をモニタリング」し、理解度を推定し、講師に連絡。講師は、該当者に質問等の声掛け。「声掛け」記録での受講態度測定。受講者に注意勧告。（過去に該当者なし） 5. 5分間以上の「離席」は、再受講をして頂く。「モニタリング係」からの指摘。（過去に該当者なし）
修了認定基準に満たない受講者への措置	1. 出席率100%（欠席時は、再受講を求めています。再受講は無償です）。欠席があれば、修了証書の発行はしない。 2. 「理解度テスト」が満点であること。（再提出回数の制限はなく、受講期間を過ぎても満点になれば、修了証は発行する。 3. 毎回の「事例演習課題」の発表が、80点以上の評価であること。
修了認定の判断基準（出席率、修了テスト等の具体的な判定基準）	1. 前述のように、受講期間を過ぎても、「理解度テスト」は、満点になるまで、再提出を求める。 2. 補講制度があり、無制限に補講は、申し込むことが出来る。（定期補講と随時補講がある）修了認定基準まで、補講を継続し、修了して頂いている。 3. 補講制度 定期補講：講習日の前後2時間は、講師が待機し補講希望者に備えている。 随時補講：受講者の希望時間（主に就業時間外）に、できる限り沿うよう、実施している。 補講はすべて無償としている。

3. 受講の利便性

社会人に対する受講のしやすさ（利便性）を高める工夫	・すべての講義はオンライン・ライブ研修で行われる。 コロナ以前からこの方式を採用し、MAX20人以内の受講生に対し、あたかも1対1かのような講義と、受講者同士の対話や演習を交え、知識とスキルの習得を図っている。（zoomを使用） ①受講者は会社や自宅から受講することができる。②社会人の受講をしやすいするため、1週間に1度、午後の半日（4時間）を受講時間とし、14週間が一つの学習チームとなる。 ③講義の録画をオンデマンドで見ることができる。これは復習にも使用できる。 ④前述の「補講制度」の利用が非常に多い。（受講できない場合は、受講者の時間の都合がつく日時で、補講で必ず受講頂く。）
受講者に対するサポート体制	・①質疑は、メールまたは前述「補講制度」が活用されている。 ②「事務局」が、12時間以内に受講生からの、質疑に回答している。 ③「理解度テスト」「演習課題」の成績の悪い方には、「事務局」から、受講者に「補講」に申し込むようガイドしている。 ④受講中は、「モニタリング係」が、常に受講者の「表情」をモニタリングし、表情の曇った方、睡魔に襲われている方には、講師に連絡が入り、講師から該当受講者に声かけをしている。 ⑤受講者は、チャットでも質問でも質問できるが、「質問カード」をカメラに掲げる事で、講義を止め質問が出来る。また、講師から、講義内容の理解度を受講者に講義中にもとめ、受講者は「理解度カード」を提示することになっている。「理解度カード」は、5点法で3点以下の方が一人でもいれば、再度同じ講義を行うルールになっている。

[モノづくり企業におけるDX化によるBPR（業務再構築）責任者養成講座]カリキュラム

回数	日程	教育名	教育内容
1	10/17(月) 14:00 ～17:00	キックオフ DXによる利益の獲得 ーそれを実現する管理技術とはー	<p>「内容」</p> <p>①モノづくり企業におけるDX ②DXによる利益の獲得 ③DXの前提ー管理技術とは？</p> <p>「到達目標」</p> <p>①DX実現時の利益を理解する ②管理技術がDX推進を支える事を理解する ③ICTと業務知識だけではBPR構築は無理な事を知る。</p>
2	10/24(月) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (生産計画、資材計画のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①「生産計画の業務知識」 ②生産計画の目的・課題 ③管理方式の説明（計画立案・検証方式） ④生産計画DXの成功例と業務フロー （生産計画ー製造計画・購買計画）</p> <p>「到達目標」</p> <p>講義／演習を通じて、受講企業ごとの生産計画のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
3	10/31(月) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (工程管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①工程管理の「業務知識」 ②工程管理の目的・課題 ③管理方式の説明（作業指導、作業指示 作業標準・標準時間設定の各方式） ④工程管理のDXの成功例と業務フロー （製造計画ー作業指図ー実績ー作業指導）</p> <p>「到達目標」</p> <p>講義／演習を通じて、受講企業ごとの工程管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
4	11/07(月) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (購買・外注管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①購買管理の「業務知識」 ②購買外注管理の目的・課題 ③管理方式の説明 （MRP・OP・製番・カンバンの各方式） ④購買管理のDXの成功例と業務フロー （購買計画ー発注ー納期管理ー受入ー検収ー買掛 ー支払処理）</p> <p>「到達目標」</p> <p>講義／演習を通じて、受講企業ごとの購買管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>

回数	日程	教育名	教育内容
5	11/14(月) 10:30～ 12:00 13:00～ 17:30	業務毎の管理技術 実習 (作業管理 実習)	「内容」 ①I Eの基礎知識（動作経済の原則等）を学習し ②「レゴブロック」による我見による実技組立と ③動作経済の原則を学んだ実技組立により、モーションマインド体験し効果を実感する。 ④標準時間の設定を学びICTによる作業指導を学ぶ。 「到達目標」 I Eの知識が、生産性を20－50%高める事を、体感する事、作業標準の設定方法と標準時間の設定を学び、ICTによる作業指導を学習する。
6	11/21(月) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (在庫管理のDX推進)	「内容」 ①在庫管理の「業務知識」 ②在庫管理の目的・課題 ③管理方式の説明（循環棚卸、出庫方式、原材料倉庫とライン倉庫の各方式） ④在庫管理のDXの成功例と業務フロー（出庫指図、ライン倉庫、循環棚卸） 「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの在庫管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する
7	11/28(月) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (部品表「BOM」管理のDX推進)	「内容」 ①部品表管理の「業務知識」 ②部品表管理の目的・課題 ③管理方式の説明（多様化時代の部品表－仕様展開の技法、E-BOM/M-BOMの連携、BOMの精度維持方式） ④部品表管理のDXの成功例と業務フロー（仕様展開、CAD連携、設変／新旧切り替え） 「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの部品表管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する

回数	日程	教育名	教育内容
8	12/05(月) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (受注出荷管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①受注出荷管理の「業務知識」 ②受注出荷管理の目的・課題 ③管理方式の説明（製造依頼と出荷指図、受注引当と出荷指図引当、製品の期間別在庫） ④受注出荷のDX成功例と業務フロー (受注、出荷指図、受注引当と納期回答、生産計画)</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの受注出荷管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
9	12/12(月) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (品質管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①品質管理の「業務知識」 ②品質管理の目的・課題 ③管理方式の説明（受入・工程・製品検査方式・出荷承認方式・再検査方式・試験検査計画立案、検査有効期限、ライン化） ④品質管理のDX成功例と業務フロー (検査計画、検査依頼・合否判定、再検査計画、検査成績書、トレサビリティ)</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの品質管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
10	12/19(月) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (原価管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①原価管理の「業務知識」 ②原価管理の目的・課題 ③管理方式の説明（標準原価計算、実際現計算、チャージ計算、棚卸評価法、原価差異分析法） ④原価管理のDX成功例と業務フロー (標準／実際原価計算、原価差異分析、原価シュミレーション、配賦・チャージ計算)</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの原価管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>

[モノづくり企業におけるDX化によるBPR（業務再構築）責任者養成講座]カリキュラム

回数	日程	教育名	教育内容
11	01/16(月) 10:30～ 12:00 13:00～ 17:30	業務毎の管理技術 実習 (原価チャージ計算 実習)	<p>「内容」</p> <p>①自社会計データを使用し、自社のチャージ計算を実習する。 ②予定賃率、実際賃率を求める ③「生産管理DX化 学習ライブラリ」（全体）を使用し自社のチャージ計算の仕組みを構築する。</p> <p>「到達目標」</p> <p>自社のチャージ計算を構築できる。 予算管理からの予定賃率、受講企業の会計データからの実際賃率を求める。</p>
12	01/23(月) 14:00 ～17:00	生産管理のDX事例 (「生産管理のDX 学習ライブラリ」（全体）で疑似体験)	<p>「内容」</p> <p>①受注出荷から原価管理までのDXの実際を、「生産管理DX 学習ライブラリ」（全体）を使用して、マン/マシンフローを理解しながら、実機で演習する。</p> <p>「到達目標」</p> <p>各單元ごとに学んできた、業務ごとのDXを、業務間の連携を再認識し、DXの全体イメージを確立する。</p>
13	01/30(月) 14:00 ～17:00	分析・設計・定着化・効果測定技術	<p>「内容」</p> <p>BPR構築の「分析・設計・定着化・効果測定技術」の概要を学ぶ。</p> <p>「到達目標」</p> <p>①現状分析－基本設計－RFP作成－詳細設計－データ構築及び定着化技法の概要習得 ②現状分析の内、「個人別職務分析」を、分析ツールを使用して、受講者自身の分析を行い、有用性を実感する。</p>
14	02/06(月) 14:00 ～17:00	成果発表 －受講者ごとの「DX計画」の発表。受講者同士の評価、講評 DX「共通原則」の講義	<p>「内容」</p> <p>①成果発表 受講者ごとの、成果発表 の実施 ②管理技術の「共通原則」講義</p> <p>「到達目標」</p> <p>DX実現のためBPR構築を管理技術を駆使して、どのように社内に広めるか、BPR構築の開発計画を立案できる。</p>